

—関連施設だより—

地域密着病院としての南町田病院の活動

二宮 宣文

社会医療法人社団正志会 南町田病院

Social Medical Corporation Seishikai Minami Machida Hospital as Community-Based Hospital

Norifumi Ninomiya

Social Medical Corporation Seishikai Minami Machida Hospital

南町田病院は平成16年に開設され平成31年で15年目を迎えた比較的新しい病院です。開設者は正志会理事長猪口正孝で学校法人日本医科大学理事も兼任されており日本医科大学とは密接な関係にあります。地理的には、東京都町田市にあります。アクセスは東急田園都市線南町田駅から徒歩で7分のところにあり、今改築中の隣接するグランベリーモールが完成すると5分の距離になります。車では東名高速横浜町田インターから5分の場所にあります。また国道246号線、16号線の交差点より3分で非常に交通の便の良いところに位置しています。医療圏は町田市の南地域を受け持っており、さらに隣接する神奈川県横浜市、大和市、相模原市からもたくさんの患者が受診され、受診外来患者は年間10万人以上に達しています(図1 外来患者数)。

当病院は急性期病棟に加え平成26年に34床の回復期リハビリテーション病棟、平成30年に56床を地域包括ケア病棟にして現在222床の地域密着型病院として運用されています。診療科は内科、外科、整形外科、脳神経外科、泌尿器科、小児科、眼科、耳鼻科、婦人科、皮膚科、形成外科、麻酔科、リハビリテーション科、救急科などがあり24時間365日対応の救急病院となっています。入院患者数は平成29年度(調査期間:平成29年10月1日~平成30年9月30日)は4,134名でさらに増加傾向にあります(図2 入院患者数)。

地域別入院患者(平成29年度海外を除く)は、69.7%が東京都、28.6%が神奈川県からで県境にある病院である特徴が出ています。東京都では町田市が94.9%で地域密着型病院であることがわかります(図3 地域別入院患者)。



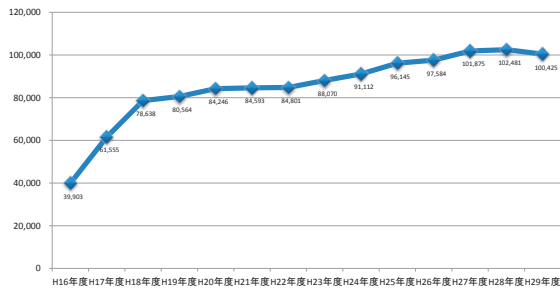


図1 外来患者数

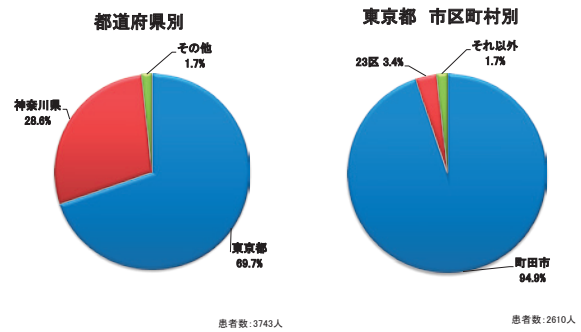


図3 地域別入院患者

(平成29年10月1日～平成30年9月30日 海外を除く)

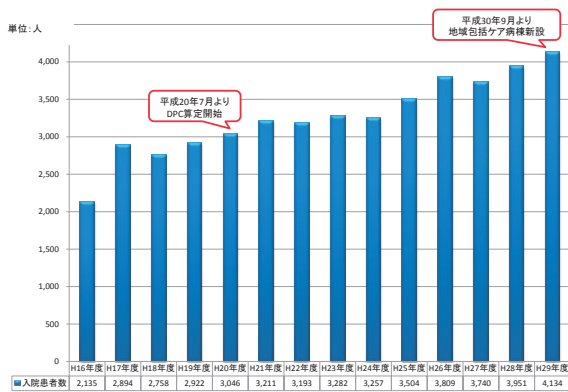


図2 入院患者数

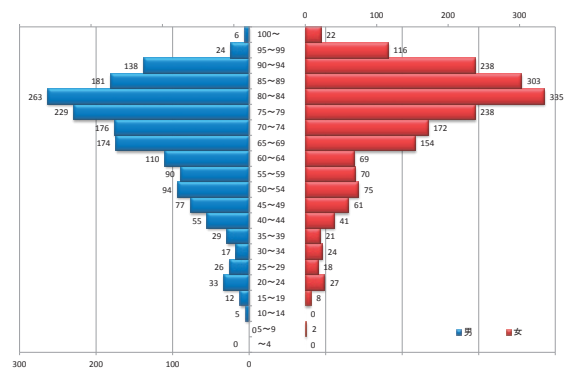


図4 年齢別・男女別 入院患者数
(平成29年10月1日～平成30年9月30日)

平成29年度年齢別・男女別・入院患者数は、町田市でも高齢化が進行し入院患者数で見ると男女共に80歳から84歳が最も多く、65歳から94歳の高齢者がそのほとんどを占めています。今後ますますの高齢化が進むと思われます(図4 年齢別・男女別入院患者数)。

平成29年度の各科の疾患別割合は、内科は誤嚥性肺炎(21%)、肺炎(14%)、心不全(9%)と高齢者特有の疾患が多く、外科は癌疾患(14%)、大腸ポリープ(13%)が多いです。また当院では形成外科手術も行っており反母趾が8%を占めています。整形外科は高齢者の転倒による大腿骨骨折が29%、腰椎および骨盤骨折が14%、前腕骨折が12%を占めています。脳神経外科は脳梗塞42%、頭蓋内損傷18%、脳内出血14%です。

法人は、南町田病院の隣に在宅医療の南町田ペンギン在宅診療所、ショートステイ施設であるペンギンステイ南町田、訪問看護の南町田訪問看護ステーションペンギンを設置し、地域や病院と密接な連携を取りながら通常診療、救急医療、在宅医療を含め地域包括医療の中心的医療施設として稼働しています。また平成26年に災害拠点病院に認定され、DMAT、AMATなどの災害医療派遣チームを擁し、災害医療拠点病院として被災者の医療に携わっています。

学校法人日本医科大学とは今後とも密接なく知の連携を取りながら地域に密着した<暗黙知>としての医療活動を行なっていく病院であります。

(受付：2019年3月1日)